日刊 動労千葉

85. 3. 23

No. 1896

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

3・24、さあ あと1日

各支部で奮闘中

『3・24三里塚』三たびの五割動員貫徹で、三里塚―国鉄決戦の大爆発をきりひらこう！―この力で「過員」攻撃をふきとばしていこう！　労働者・農民・人民の犠牲の上にあぐらをかき、戦争と反動へとつき進んでいる中曽根を今こそうち倒そう！―今、全支部でこん身の力をこめた総決起運動がうなりを上げて回転している。3・24まで「あと一日！」。トコトンやりきって、わが動労千葉の底力、ド根性を敵に見せつけてやろう。各支部通信員からの報告を掲載します。（編集委員会）

成田 通信員・発　支部長先頭に年休体制で総決起

―3/15支部総決起集会かちとる―

三月十五日、十二時より講習室において、成田支部総決起集会が開催された。本部より布施書記長を迎え、錦織支部書記次長の司会で開催された集会の冒頭、日暮支部長のあいさつをうけた。

日暮支部長は、「昨日より『60・3ダイ改』がスタートした。三月十四日で成田運転区廃止案が出されようとしたが、われわれはそれを粉砕してきた。『60・3』では、当局は〝提案通り〟をゴリ押ししてきたが、最終的には一増を勝ちとってた経緯がある。しかし現状は、極端に言えば鉛筆一本とるのも思い通りにいかないという情勢下にあって、明らかに過去とは質の違う攻撃がかけられている。これからの『過員』攻撃に対しても、組合員の団結力ではねかえしていかなければならない。間近に迫っている『3・24三里塚現地集会』では、三度目の五割動員を貫徹してわれわれの団結力・組織力を敵に指し示してやらねばならない。五割を達成するためには、予備の数が多いので、年休をとって積極的に参加することがカギだ。このような一人ひとり、全員の闘いの積み上げがこれからの攻撃を粉砕していく力となると信じる」と、確信あふれる力強いあいさつを述べ、全員は拍手で確認した。

つづいて、本部布施書記長が「60・3」の集約に至る経過、これからの「過員」攻撃と闘う方向性を中心に報告し、「3・24には、厳しい時こそ現場において指令が出れば腹いっぱい貫徹できることを示しきることが大切だ」と現場の奮闘をたたえ激励した。

支部大須賀書記長より、「当面する取り組み」が提起され、質疑討論に移り、①東京線見による年休について、②新ダイヤの準備時間について、③銚子に仕業移管されたものが将来バックできるのか、等の質問が出され、本部答弁をうけたのち、「3・24」には五割動員達成を参加者全員で確認し、団結ガンバローを三唱し、成功裡に終了した。

青年部、10割動員体制を確立

※　20日現在、成田支部青年部（部員数23名）は、独自の年休闘争を貫徹し、「23名全員が現地集会に参加する」体制を既に確立し、支部総決起の先頭で奮闘している。

書記 通信員・発　反対同盟をまねき、職場集会（3/20）

―5割貫徹で「過員」攻撃うちくだこう―

三月二十日、津田沼支部は、反対同盟青年行動隊・宮本衛氏を迎え、「60・3」闘争総括、3・24総決起に向けた職場集会を開催した。

綾部書記長の司会のもと開催された集会で、冒頭あいさつに起った山下支部長は「支部は全組合員の一致団結した力で60・3闘争を闘いぬいた。三月十四日以降の労働強化・過員攻撃を打ち破る道こそ総屈服情況をはねとばすこの団結力・組織力だ。　四月三里塚二期着工攻撃と対決し、全員年休で五割動員をかちとることは団結力・組織力を示すバロメーターであり、当局、中曽根への最大の反撃だ。これをやりぬいてはじめて『60・3』闘争の真の成果を実現したといえる。当局と一体となった動労『本部』革マルの組織破壊を許さず、3・24へ総決起しよう」と提起した。本部を代表して起った片岡執行委員は、　支部の闘いに敬意を表するとともに「60・3」闘争の成果を明らかにし、「60・3」以降はじまった新たな闘いに勝利するためにこそ、3・24職場生産点からの総決起を訴えた。現地からかけつけてくれた青行隊・宮本衛氏は「三里塚と国鉄の闘いは一体だ。中曽根の反動・軍事大国化と対決するため、動労千葉と共に農地死守、実力闘争で勝利まで闘う」と断固として訴えられた。

これを受けた討論では、カーテン問題、過員問題、勤務の問題等について活発な質疑が交され、動労「本部」革マルの組織破壊を許す事なくどんな小さな問題でも反撃の体制をつくる―職場の力関係を維持、発展させるためにも3・24総決起を実現することを全員で確認し終了した。

8割動員を確立し、先頭にたつ青年部

※　津田沼支部青年部は、20日現在、最大限の年休闘争を貫徹し、「支部青年部員数の8割＝45名決起」の体制を確立した。動労「本部」革マル＝嶋田らは、卑劣なデッチ上げタレコミ（カーテン問題）、謀略ビラ貼りによる本社監査の呼びこみでなんとか闘争圧殺・組織破壊をと策動したが、職場の全員から指弾され意気消沈している。青年部は、最先頭でガンバルぞ！

全力あげて「5割」貫徹へ